

モモの摘らい・摘花に重点を置く早期着果管理は作業時間を削減できる

福島県農業総合センター 果樹研究所栽培科

1 部門名

果樹－モモ－栽培

2 担当者名

三田村諭、安達義輝、遠藤敦史、南春菜、渡邊善仁、佐久間宣昭

3 要旨

モモ「あかつき」は、大玉生産を目的とした着果管理や硬核期前の強摘果により核障害が助長され、品質低下の要因となっている。その対策として、摘らいや摘花に重点を置いた早期着果管理により、核障害を助長すること無く大玉生産が可能であるだけでなく、硬核期前に集中する摘果作業の分散と作業時間の削減が可能である。

- (1) 摘らいや摘花作業に重点を置いた早期着果管理と慣行の着果管理にかかる時間を比較したところ、摘らい～仕上げ摘果までの着果管理作業時間の削減が可能であった(表1、表2)。
- (2) 硬核期以降(満開後70日～収穫始めまで)の降水量が平年の152%であった本年においても、核縫合面割裂障害の発生の推移に差は認められなかった(図1)。
- (3) 凍霜害が発生しやすいほ場や花粉の無い品種は、着果量が不足するおそれがあるので、本技術は実施しない。

表1 早期着果管理の方法

	【摘らい程度】				【着果管理体系】			
	長果枝 30cm以上	中果枝 15～30cm	短果枝 5～15cm	極短果枝 5cm以下	摘らい・摘花	予備摘果	仕上げ摘果	修正摘果
早期管理	15cm間隔	1～2	1	0	落花期まで見直し	30～50日	80日	
慣行	5cm間隔	3～4	2	0	発芽前	25日	40～50	80日

※結果枝当たりの花芽数 ※満開後日数

表2 着果管理作業時間の比較

	収量 (Kg/樹)	収量1t当たり作業時間(時:分/t)				計
		摘らい	見直し摘らい	予備摘果	仕上げ摘果	
早期管理	176	20:13	8:47	—	4:43	33:43
慣行	149	—	—	10:58	4:54	36:06
有意性	ns	—	—	—	ns	*

注: *は検定において危険率5%水準で有意差があり、nsは有意差がないことを示す。

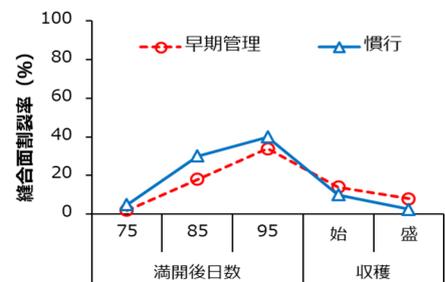


図1 早期着果管理が核縫合面割裂障害に与える影響

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成27年度～令和2年度
- (2) 研究課題名 果樹の省力・高品質生産技術体系の確立

5 主な参考文献・資料

- (1) 安達ら, モモ「あかつき」の核障害多発要因, 平成30年度普及に移しうる成果。